

特集

ツアーで出会う

本特集で言うツアーとはスタディツアーのことである。単なる観光を目的にしたものではなく、教師と学生が教室の外の誰かに出会う、教育的営みとしてのツアーのことを言う。なぜツアーを行うのかと言えば、教師は学生に教室では出会えない何かに出会わせたくて、或いは自分自身が学生といっしょに何かに出会いたくて出かけていくのだろう。

では、言語の教育をする場でなぜツアーを行うのだろうか。私たちは「日本語文学系で学生は何を学ぶのか」を長年議論してきた。その議論の中で出てきたことは、言語は人類が歩んできた歴史や文化を学び、思考し、人々と交流し、社会に貢献する何かを作っていくためのツールであるはずだということである。言語のパーツを学ぶと同時に、歴史や今の社会について学び、自分が社会のどの位置にあるのか、どう生きていくのかを思考し言葉を使って自分のものにしていくという、そうした意図が教育的営みとしてのツアーにあったのではないだろうか。

それにしてもツアーはまだまだ耳慣れない言葉だ。定義も一つではない。そこで、「ツアーとは何か」をあらためて考えてみたい。

- ・ツアーとは何か
- ・私たちは、なぜ、どこへ出かけていくのだろうか
- ・そこにはどんな出会いがあるのだろうか
- ・それはどのような学びにつながるのだろうか

本特集には、さまざまなツアーの実践が集まった。

自らが出かけるツアー、学生を連れて出かけるツアー、学生と共に創るツアー、学生であった自分が経験したツアーなど、さまざまなツアーが行き交う場で、ツアーで出会う躍動、呻吟する声、そして人々の息遣い、を聞きながら、ツアーの今後を考えたい。